

平成 25 年度「未来塾ながの in 韓国」研修報告

「未来塾ながの」は、長野県教育委員会による高校生キャリア教育プログラムとして平成 20 年にスタートしました※注1。今年は JENESYS2.0※注3プログラムの後援を受け、韓国にて 1 週間の研修を実施※注2、全県から集まった 46 名の高校生が参加しました。日韓文化交流基金のご尽力により在大韓民国日本大使館などの行政機関や、現地進出の日本企業の訪問、キムチづくりやテコンドーなどの文化体験、現地高校生との交流やホームステイ等、「未来塾ながの」の研修要素をふんだんに盛りこんだプログラムを実施することができました。以下、実際に韓国の高校生と交流した生徒たちの声を紹介します。

◆学校訪問では一緒に授業を受けた。これは異文化を肌で体験でき、韓国の人の考え方がわかる。彼らは授業への意欲がものすごく高く、挙手の回数が多いのだ。隣の席の子のノートを見ると、一面ぎっしり書き込んであり、予習である程度の理解を得ていると感じた。日本人は真面目過ぎると外国人からは見られるが、真面目でユーモアのあるのが韓国人だと心で感じた。(2年男子)



活気のある韓国の高校の授業風景

◆最初は誰もが言葉も通じないのに大丈夫なのかと緊張していたと思う。でも高校生やその家族の積極性、元気、またその中にある優しさに触れることで、緊張でこわばっていた顔も自然に和らいだのだと思う。そのようなことから、実際に交流しなければわからない、人の本当の「魅力」に気付かされた。僕自身も、そんな「魅力」ある人になりたいと思った。(1年男子)



日韓の高校生で和気あいあいと記念撮影

◆日本には韓国の高校生の日常など見ることができないが、「百聞は一見にしかず」という言葉もあるように、今回実際に見ることで様々なことを知ることができた。また韓国に対するイメージも変わった。今回の研修を通して、メディアの情報だけに頼らず、物事をもっと客観的に見られるようになりたいと思った。(2年女子)

◆ホームステイした家で、日本と韓国の関係についても話したが、パートナーの父親が「日本と韓国の若者は古い歴史にとらわれなくて手をつないで互いを支えていく存在になる必要がある」と言っていた。一番の本質である国民同士の協力が本当にこの先不可欠だということを改めて思い知らされた。目先の情報にとらわれなくて、これからはグローバルな視点から物事を見る必要がある。自分は、その視点を作るきっかけを今回頂いたと思う。今後、何らかの方法で発信していきたい。(1年男子)

* * * * *

今回のプログラムでは、韓国で活躍する長野県出身者に数多く出会いました。中でも、在大韓民国日本大使館では長野市出身の若き外交官のお話を伺いましたが、彼女に対し「どんな高校生活を送ったのか」「仕事のやりがい何か」など、質問を重ねる生徒の目は真剣そのものでした。また、エプソン・コリアの社長、韓国語の通訳など、海外で働く信州人の姿に大いに刺激を受けた生徒たちからは、「語学に力を入れ、将来は海外で活躍したい」



景福宮前にて

「日本に帰ったらもっと勉強しようと思った」などの感想が聞かれ、韓国での研修が彼らにとって「生きた」キャリア教育プログラムとなったことを実感できました。そして何よりも一週間のうちにみるみる成長していく高校生の姿が印象的であり、高校時代に生徒たちにどんな体験をさせ、どう導くのか、引率者自身も一教員として考えなおす良い機会となりました。

今、日韓の関係はいつになく冷え込んでいると報道されています。しかし現地の高校生やその家族、企業等の方々と直接交流することで、「隣国・韓国」に対する理解を深められたことは、今回の研修の大きな収穫でした。

* * * * *

※注1 産学官連携のキャリア教育推進事業。将来および地域をにう人材に必要な資質を養成することが目的。企業・大学・自治体など先進的な取組を学ぶとともに、優れた企業人・研究者・行政担当者等と交流することにより、勤労観を養えるような機会を提供する。同時に、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力などの伸張を図ることをねらいとしている。

※注2

1 訪韓の目的

県内の高等学校の生徒を韓国に派遣し、国際関係機関・現地企業での研修や韓国の高校生との交流を通じてコミュニケーション能力を高め、異文化理解や国際的視野を広めることにより、未来の信州のリーダーとなる人材の育成を図ることをねらいとしている。

2 概要

- (1) 主催等 主催：長野県教育委員会 共催：公益財団法人日韓文化交流基金 後援：長野県経営者協会
- (2) 日程 平成25年11月17日(日)～11月23日(土)
- (3) 派遣人数 県内高校生46名 引率3名(教学指導課)

※注3 Japan-East Aσίας Network of Exchange for Students and Youths

3万人規模でアジア大洋州諸国及び地域との間で実施する外務省の青少年交流事業。政府の経済対策の一環として位置付けられている。